

マイナ保険証の問題点を考える

参加
無料

～マイナンバーカードが保険証になったら何が起こる？

日時

2024年9月20日（金）

17:30～19:30（開場17:00）

場所

① 神奈川県弁護士会館 5階大会議室
事前申込不要 定員 100名（先着順）

② WEB（Zoomウェビナー）での参加
下記URLまたは右のQRコードからお申込みください。



https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_CTiMQsslTy-ty6eS_-hUOw#/registration

プログラム

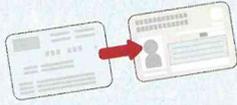
- 1 医療データの利活用とプライバシー保護
- 2 マイナ保険証の問題点と今後の展開
- 3 マイナ保険証に対する日弁連の取り組み

武藤 糾明 弁護士（福岡県弁護士会）

知念 哲 氏（神奈川県保険医協会事務局次長）

彦坂 敏之 弁護士（神奈川県弁護士会）





政府は、現行の健康保険証を廃止して、「マイナ保険証」へ原則一本化する方針を決定しました。

しかしながら、マイナ保険証への原則一本化は、多くの問題をはらんでいます。

そこで、マイナ保険証への原則一本化について問題提起を行い、議論を深めたいと思います。



講師プロフィール

■ 武藤 糾明（むとう ただあき） 弁護士

1997年弁護士登録（福岡県弁護士会）。日本弁護士連合会情報問題対策委員会副委員長。2022年度日弁連人権擁護大会シンポジウム第2分科会「デジタル社会の光と影～便利さに隠されたプライバシー・民主主義の危機～」実行委員長。住基ネット訴訟、マイナンバー訴訟、ハンセン病国賠訴訟、B型肝炎訴訟などに関与。共著で、「日本のデジタル社会と法規制」（花伝社、2023年）、「監視社会をどうする！」（日本評論社、2018年）など。

■ 知念 哲（ちねん さとし） 氏

神奈川県保険医協会・事務局次長。2006年より医療IT化問題を主に取り組み、2009年の「オンライン請求義務化撤回訴訟」や現在最高裁で係争中の「マイナンバー違憲訴訟@神奈川」にも関わる。共著で「共通番号制度のカラクリ」（現代人文社、2012年）、「共通番号の危険な使われ方」（現代人文社、2015年）

■ 彦坂 敏之（ひこさか としゆき） 弁護士

日本弁護士連合会情報問題対策委員会委員、神奈川県弁護士会情報問題対策委員会委員

アクセス

神奈川県弁護士会館

- ・みなとみらい線日本大通り駅(1番出口)より徒歩約1分
- ・JR関内駅(南口)・横浜市営地下鉄関内駅(1番出口)より徒歩約10分
- ・バス停「本町1丁目」より徒歩約3分
- ・バス停「日本大通り駅県庁前」より徒歩約3分
- ・バス停「港町」より徒歩約10分

